

下鼻甲介形成術とは

下鼻甲介形成術とは、鼻づまりの原因となる肥大した下鼻甲介を適切な大きさに整える手術です。鼻の奥の空間を広げることで鼻通りを良くし、鼻詰まりを改善することができます。

下鼻甲介形成術の持続性

下鼻甲介形成術は半永久的に効果が持続する手術ではありますが、重度のアレルギー性鼻炎がある方は、粘膜が炎症性に厚くなることで鼻づまりが再発することもあります。

下鼻甲介形成術後の状態・ケアについて

- ・当日と翌日は入浴、洗髪、シャワー等は避けて安静に過ごしてください。それ以降、医師の判断により入浴可能となりますので指示に従ってください。術後1週間程度は血流が良くなることでの腫れを防ぐため、長時間の入浴や熱いお風呂はなるべく避け、軽いシャワー程度をおすすめします。
- ・手術当日と翌日は患部がなるべく濡れないようにしてください。入浴許可が出て以降は鼻周辺も優しく洗っていただいて大丈夫です。メイクは医師の指示に従ってください。最初のうちは鼻周辺に触れる際はなるべく優しく、できる限り負担をかけないようにしてください。
- ・内出血については、個人差がありますが数週間前後で消失します。
- ・術後は、しばらくの間鼻に強い力が加わらないようにしてください。とくに術後1週間程は手術部位や傷口周辺が不安定な時期のため、なるべく鼻に負担がかからないよう充分に注意して生活してください。具体的には、うつ伏せで寝る、鼻を押す、ぶつける、鼻をかむ、鼻先や傷口周辺を触るといった行為はできるだけ行わないよう充分ご注意ください。
- ・飲酒は血流が良くなり腫れが長引く原因になりますので、1週間ほどお控えください。
- ・運動は血流が良くなり腫れが長引く原因になりますので、軽い運動は2週間、激しい運動は当面の間お控えください。

※経過観察をする目的で施術部位の写真を撮らせていただきます。撮影させていただいた写真に関しては、厳重に保管し患者様との経過観察以外で無断使用することはありませんのでご安心ください。

※気になる症状がある場合には1ヶ月程度様子を見てください。1ヶ月以上経過しても違和感が継続している場合、クリニックまでご連絡ください。

※授乳中の方は、術後48時間は断乳して頂きますようお願い致します。

下鼻甲介形成術で生じる可能性のあるリスクについて

【痛み】

局所麻酔の注射時に痛みがあります。術中は麻酔の効果で痛みはありませんが、術後麻酔が切れると痛む場合があります。痛みがある場合は処方される内服薬をお飲みください。

【出血】

術後に血液が混じった鼻水が出る場合があります。鼻を強くかんだりティッシュを詰めたりせずに、優しく拭き取るようにしてください。口腔内の血液は飲み込まずに、吐き出すようにしてください。

【感染】

術後、感染が生じると傷口の治りが悪くなったり、腫れが強くなる場合があります。場合により、抗生剤の内服や外科的処置が必要となる可能性があります。

【鼻閉感の再発】

術後に鼻づまりが再発する場合があります、再度手術が必要になる可能性があります。

【副鼻腔炎】

術後に副鼻腔炎を発症し、治療が必要になる場合があります。

下鼻甲介形成術をお受けいただけない方

妊娠中の方、親権者の同意がない未成年の方、鼻に怪我や炎症がある方、局所麻酔剤にアレルギーをお持ちの方は手術を受けられません。